

## 令和7年度 経済委員会行政視察 事前勉強会資料

### ①10/22(水)午後 【STATION AI(愛知県)】

視察項目	スタートアップとオープンイノベーションの推進について
視察項目の概要	愛知県の「Aichi-Startup 戦略」の一環として運営している国内最大級のオープンイノベーション拠点であり、スタートアップ企業の創出育成およびオープンイノベーションの促進を目的に様々な支援サービスを提供している。
視察項目に関する本市の現状・課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度(2022年度)に、本市初のスタートアップ支援施設「XOSS POINT.」を開設し、スタートアップ支援やスタートアップ・エコシステムの構築に向け取り組んできた。</li><li>・これまで、スタートアップの成長ステージに応じた支援プログラムを展開し、更なる成長やグローバル展開支援を行ってきたところ。</li><li>・このような中、本年6月には、内閣府のスタートアップ・エコシステム拠点都市に選定され、世界から選ばれる都市を目指し、グローバル展開や若年層向けのアントレプレナーシップ教育にも更に注力していく必要がある。</li></ul>
視察のポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・施設構成と運営体制(地上7階建て、延床面積約23,000㎡、スタートアップ向けオフィス、イベントスペース、ホテル、カフェ、託児施設などを併設)</li><li>・官民連携の仕組み(愛知県とソフトバンクが連携して運営)</li><li>・支援プログラムの多様性(起業前のアイデア段階～成長期まで対応する支援プログラム、学生・社会人向け起業家育成プログラム(STAPS、ACTIVATION Lab)</li><li>・データ活用とスマート運営(AIカメラによる人流分析を活用した施設運営の効率化)</li></ul>

## 令和7年度 経済委員会行政視察 事前勉強会資料

### ②10/23(木)午後 【和歌山県紀の川市】

視察項目	加工品認定ブランドの立ち上げについて
視察項目の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・紀の川市は世の中に一石を投じるとの意を込めた「ISSEKI KINOKAWA BRANND」という独自ブランドを展開している。</li><li>・この取組は、多岐にわたる地域課題を、全国から招聘したクリエイターたちと連携して解決していく共創型の取組と連動しており、その1つである規格外果実の有効利用を課題とした「のうかのしゅくだいプロジェクト」の中では「一筆箋」と呼ばれる「くだもの和紙」が創出され、ブランド認定されている。</li></ul>
視察項目に関する本市の現状・課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・本市では、首都圏や海外に対して連携中枢都市圏内の農水産品やその加工品の魅力を「熊本ブランド」として一体的にアピールすることで販路の拡大を図ってきた。</li><li>・行政が認定するブランドは有していないが、既に対外的な認知度を有している「植木すいか」や「塩屋一番」をはじめとする海苔など、個々の民間団体が立ち上げた独自ブランドが一定の訴求力をもって展開している。</li><li>・本市農水産業の持続的な発展を図るためには、販路拡大や付加価値の向上はもちろんロスの低減やブランド力の強化など、多岐にわたる収益確保策の検討が必要であるとともに、生産者と地域が抱える課題の解決も求められている。</li></ul>
視察のポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・本取組に至るきっかけとなった課題やニーズに対する経緯や苦労、また生産者の反応をお聞きしたい。</li><li>・一大果樹産地として、多くの地域課題を抱えておられると思うが、全国から集まっていたいただいた多種多様な業種の皆様と各課題とのマッチングにおいて重要視されたポイントは何か、一定のビジョン、ゴールとなる製品を想定しながら繋いでいかれたのか等についてご教示願いたい。</li><li>・「ISSEKI KINOKAWA BRANND」として FOOD EX 2023 に出展されているが、反響とその後の取引事例等についてご教示願いたい。</li><li>・きのかわコラボレーションプロジェクトは、地域課題を既存のビジネス枠組みや組織の枠を超え、“連携”によって解決するため、個人や1社だけでは難しい新たな持続可能なビジネスの創出に向け、地域力を育む取組とされているが、これまでの取組と実績についてご教示願いたい。</li></ul>